

校長室だより

八代市立龍峯小学校
校長 村嶋 博史



学校教育目標 「**学びを生かす子供**」

～自信と誇りをもった「きらりと輝く龍峯っ子」の育成～

R2,12,9

NO,31

子供の成長（教育）には、ご家庭と学校の連携が必要不可欠です

昨日（12月8日）行いました授業参観では、全学級で「人権問題学習」をご参観いただきました。ご家庭でも授業内容をもとに、人権について話し合っただけであれば、お子様の人権感覚がより磨かれ、思いやり溢れる子供になることと思います。また、授業参観で見つけられたお子様の良さや成長したところなど、例え些細なことであっても大いに認め・褒め・励ましてください。どうぞよろしく申し上げます。

また、学級懇談会にも多数ご参加いただき誠にありがとうございました。よりよい教育の実現を目指す上で、保護者の方々の子育てに関する思いを知ることや、学校教育について理解していただくことは、とても重要なことです。ご家庭と学校の共通・一貫した教育（声かけ）は、お子様の成長につながります。そのためには、話し合いが必要です。今後も学級懇談会やそれ以外の場での意見交換を大切にしていきますので、よろしく申し上げます。

※学校に対するお尋ねやご意見などは、いつでもお気軽にお聞かせください。まずはお電話ください。（39-0005）

「ありがとうの花」が咲き誇っています

子供たちは、校内人権月間の取組の一つとして、「ありがとうの花」を咲かせています。

これは、友達に親切にしてもらったり、嬉しかったりしたことなどを、花の形のカードにその内容を記入して、廊下に設置されたボードに貼っていくという取組です。

子供たちは、その花がどんどん増えて、満開近くなったボードを休み時間などに熱心に見ています。また、運営・人権委員の子供たちが、給食時間に校内放送でその内容を読み上げています。自分の行為が書かれているカードを見つけたり、その内容が校内放送で読み上げられたりすると、とても嬉しそうにしているのが印象的です、



この取組を通して、子供たちに、優しさや思いやり、いじめ（差別）をしない・させない・許さない心や態度が浸透したり、人権感覚が磨かれたりすることを期待しています。

新しい仲間が加わりました

1年生に女の子一名が加わりました。登校初日（12月1日）には、全校児童が校歌を歌って迎えました。徐々に学校生活にも慣れてきて、最近は朝早く登校し元気よく挨拶をするなど生き生きと活動しています。

【裏面もご覧ください】

みんな「生まれて初めて」

作家 重松 清

(エッセイ「育てる」より)

中学生の息子をもつ父親のSさんの話。

ある夜、Sさんは息子をこっぴどくしかった。

「どうして親の気持ちを分かってくれないのか」

「どうして素直になってくれないのか」

すると息子は猛然と抗議に出た。

「文句ばかり言うなよ！おれ、生まれて初めて中学生やってるんだ！」

Sさんは啞然とした。

だが、次の瞬間思わず怒鳴り返していた。

「うるさい！お父さんだって、中学生のおまえを育てるのは生まれて初めてなんだ！」

息子もきょとんとした顔になった。

そして二人は、どちらからともなく笑い出したという。

親も子も、共に「生まれて初めて」の日々を生きている。

いや、人生そのものが「生まれて初めて」の連続ではないか・・・。

「育てる」ということを思い描くとき、自分をゴールの側において、正しい道を進むように導くことが「育てる」ことだと思ってしまう。

でも、本当はそうじゃないかもしれない。

大人も子供も、育つ側も育てる側も、みんな「生まれて初めて」の日々を生きている。

大人だって、育てながら育てているのだ。

ならば、試行錯誤もあるだろう。

失敗して悔やむことだってあるはずだ。

かまわないじゃないか、そんなの当たり前ですよ。

あえて、そう言っておきたい。

人生を何度でもやり直すことができるなら、子育ての「正解」にたどりつくだろう。

でも、それができないから、すべては「生まれて初めて」であり、「最初で最後」だから、生きることちょっと哀（かな）しくて、すごく愛（いと）おしい。

※学校ホームページに本紙のカラー版の他、様々な情報を掲載していますのでご覧ください。

八代市立龍峯小学校でご検索ください。